



Oracle® Smart View for Office

Release 11.1.2.5.200

New Features

ORACLE®

CONTENTS IN BRIEF

リリース 11.1.2.5.200 に導入された機能 .....	2
リリース 11.1.2.5.000 に導入された機能 .....	6
以前のリリースで導入された機能 .....	8

# リリース 11.1.2.5.200 に導入された機能

## Subtopics

- Smart View で作成されたビューは Smart View で編集可能
- 複数の Oracle BI EE プライベート接続のサポート
- ビュー・デザイナーでのドラッグ・アンド・ドロップ機能の拡張
- 新しいすべてのワークシートに適用オプション
- デフォルト設定のメタデータ・ストレージの向上オプション
- メンバー選択での新しい「別名表」表示オプション
- ネイティブ Excel フォーマットを Planning で保存可能
- Planning の分散の機能拡張
- Business Rules 用の新しい「メンバー選択」ダイアログ・ボックス
- フォームの新しいメンバー・ラベルの繰返しオプション
- 改善された Planning での列のインデント
- Smart View の名称変更

## Smart View で作成されたビューは Smart View で編集可能

ビュー・デザイナーを使用して、Oracle Smart View for Office で作成された Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ビューを編集できるようになりました。以前のリリースでは、Smart View で作成された Oracle BI EE ビューは、Oracle Business Intelligence Answers で編集する必要がありました。

この機能には、Smart View でのビューの編集をサポートする Oracle BI EE バージョン 11.1.1.7.1 パッチが必要です(Oracle BI EE のパッチについては、My Oracle Support のサイトを参照してください)。

**Note:** BI アンサーで作成されたビューを編集するには、BI アンサーを使用する必要があります。

詳細は、Oracle Smart View for Office User's Guide のビュー・デザイナーを使用したビューの操作に関する項を参照してください。

## 複数の Oracle BI EE プライベート接続のサポート

Smart View で、1 つの Office ワークシート、スライドまたはドキュメントにおいて、複数の Oracle BI EE プライベート接続がサポートされるようになりました。

たとえば、あるワークシートに、異なる 2 つの Oracle Business Intelligence カタログから 2 つのグラフを挿入し、シートをリフレッシュできます。各グラフは、異なる 2 つのサーバーの最新データで更新されます。

複数の Oracle BI EE サーバーに接続している場合は、次のことが可能です:

- Smart View パネルで接続間の切替えを行い、それぞれのカタログを参照できます
- 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入できます

- ビュー・デザイナーが Smart View のリボンから起動され、Oracle BI EE のビューが選択されていない場合、ビュー・デザイナーは、最後に使用した Oracle BI EE サーバーに接続されます
- Smart View のリボンから貼付けを起動して、Oracle Business Intelligence Answers のコンテンツを貼り付ける場合、その貼付けアクションでは、最後に使用された Oracle BI EE 接続が使用されます
- 異なる接続のビューを含むドキュメントをリフレッシュすると、ビューは、挿入元のサーバーに対してリフレッシュされます

この機能には、Smart View での複数の接続をサポートする Oracle BI EE バージョン 11.1.1.7.1 パッチが必要です(Oracle BI EE のパッチについては、My Oracle Support のサイトを参照してください)。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の以前のバージョンに接続する場合は、1つの接続のみが許可されます。

この機能については、Oracle Smart View for Office User's Guide の複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続に関する項に説明があります。

## ビュー・デザイナーでのドラッグ・アンド・ドロップ機能の拡張

エッジ間で列をドラッグ・アンド・ドロップする機能に加え、ビュー・デザイナーでエッジ内の列をドラッグ・アンド・ドロップで再配置できるようになりました。

## 新しいすべてのワークシートに適用オプション

新しい「すべてのワークシートに適用」オプションを使用すると、シート・レベル・オプションに加えられた変更は、現在のワークブック内のすべての既存および新規ワークシートに適用されます。変更は、他の既存のワークブックまたは新規ワークブックに適用されません。

シート・レベル・オプションは、メンバー・オプション、データ・オプションおよびフォーマットです。

たとえば、メンバー・オプションを変更し、「すべてのシートに適用」を選択したとします。変更内容は、現在のワークブック内のすべての既存および新規ワークシートに伝播されます。これにより、現在のワークブックのシート・レベル・オプションのクイック更新が可能になります。ただし、これらの変更は既存のワークブックまたは新規ワークブックに伝播されません。

**Note:** PowerPoint または Word では、「すべてのワークシートに適用」オプションを使用できません。Excel で行った変更は、PowerPoint や Word には影響を与えません。

詳細は、Oracle Smart View for Office User's Guide のグローバル・オプションとシート・レベル・オプションに関する項を参照してください。

## デフォルト設定のメタデータ・ストレージの向上オプション

Smart View 11.1.2.5.200 を初めて起動した際、「メタデータ・ストレージの向上」オプションがデフォルトで選択されるようになりました。このオプションは、Smart View の異なるバージョン間の相互運用性に関係します。

このオプションは手動でクリアできます。ただし、このオプションがオフの場合、Smart View は互換性の目的でメタデータのコピーを2つ保持します。その結果、全体的なパフォーマンスが低下する場合があります。

## メンバー選択での新しい「別名表」表示オプション

Oracle Essbase および Oracle Hyperion Planning 接続に対して、新しい「別名表」オプションを使用して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに表示されるメンバーに別名表を適用できます。これを行うには、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスの「オプション」ボタンをクリックし、「別名表」を選択して、別名表を選択します。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行った別名表の選択は、そのダイアログ・ボックスの表示にのみ適用され、Office ドキュメントのグリッドには適用されないことに注意してください。

この機能には、Oracle Essbase 11.1.2.3.500 以上および Planning 11.1.2.3.500 以上が必要です。

## ネイティブ Excel フォーマットを Planning で保存可能

Smart View に、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として Planning サーバーに保存する方法が用意されました。保存されたフォーマットは、フォームが表示される際、Planning のブラウザ・インタフェースおよび Excel 内に適用されます。これは、Smart View の既存のセル・スタイル機能の追加機能です。

この機能の詳細は、Oracle Smart View for Office User's Guide の Planning でのネイティブ Excel フォーマットの保存に関する項、アド・ホック・グリッドのフォームとしての保存に関する項およびセル・スタイルに関する項を参照してください。

この機能には、Planning 11.1.2.3.500 以降が必要です。

## Planning の分散の機能拡張

Smart View を Planning リリース 11.1.2.3.500 以降との組合せで使用する場合、同じ行または列ディメンションで、複数タイプの分散を使用できます。たとえば、FY2013 では式の充てん、FY2014 ではフローが可能です。

この機能には、Planning 11.1.2.3.500 以降が必要です。

## Business Rules 用の新しい「メンバー選択」ダイアログ・ボックス

Oracle Hyperion Business Rules およびフォーム上のユーザー変数の変更用の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスはこのリリースで変更され、データ・プロバイダ・リボンからアクセスする標準の Smart View の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスと同じになりました。この新しいダイアログ・ボックスでは、Business Rules またはユーザー変数の変更用にメンバーを選択する際のパフォーマンスが改善され、製品全体で一貫したユーザー・エクスペリエンスが提供されます。

以前のリリースでは、Oracle Hyperion Business Rules の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスは標準の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスとフィールドやコントロールはほぼ同じでしたが、ルックアンドフィールが異なっていました。

この機能には、Planning 11.1.2.3.500 以降が必要です。

## フォームの新しいメンバー・ラベルの繰返しオプション

「メンバー・ラベルの繰返し」という新しいフォーマット・オプションが Planning および Oracle Hyperion Financial Management のフォームに導入されています。このオプションでは、データの各行にメンバー名を表示することができ、フォームの可読性が増します。

繰返しメンバーが 1 つのセルにマージされるフォームでは、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」タブで、「メンバー・ラベルの繰返し」を選択すると、フォームの読取りと使用が簡単になります。

## 改善された Planning での列のインデント

このリリースでは、階層の連続していないレベルが使用される場合のメンバーの表示が改善されています。たとえば、以前のリリースでは、5 つのレベルのディメンションで階層の 1 番目、3 番目および 5 番目のレベルが使用される場合、これらのレベルのインデントは、2 番目と 4 番目のレベルが使用されていないにもかかわらず、1 番目、3 番目および 5 番目のインデント・レベルでした。この機能では、1 番目、3 番目および 5 番目のレベルは、1 番目、2 番目および 3 番目のインデント・レベルに表示されるため、フォームの可読性や利便性が向上します。

この機能には、Oracle Hyperion Planning 11.1.2.3.500 以上が必要です。

## Smart View の名称変更

Smart View の正式な製品名は、Oracle Smart View になりました。名称から "Hyperion" がなくなりました。

略称は、これまでどおり Smart View です。

# リリース 11.1.2.5.000 に導入された機能

## Subtopics

- 簡略化されたインストーラ
- ドキュメント・コンテンツからの接続の変更
- 「ドキュメント・コンテンツ」ペインを非表示にする機能
- フォームでのデータ送信前のリフレッシュが不要
- 重複する変数名の表示の変更
- 新規 VBA 関数: HypHideRibbonMenu および HypHideRibbonMenuReset
- プラットフォーム・サポートの拡大
- タブレットのサポート

## 簡略化されたインストーラ

Smart View のインストーラは使いやすく改善されており、インストールおよびアップグレードのプロセスを合理化します。改善点は次のとおりです:

- 64 ビットと 32 ビット・バージョンの Microsoft Office に 1 つのインストーラ
- Windows の「地域と言語」ダイアログ・ボックスの「形式」フィールドに設定されている言語でインストーラを自動的に表示
- アンインストールやファイルの削除が不要なシームレスなアップグレード

また、このリリースはインターネットベースのインストールの基盤となります。インストーラの使用手順は、Oracle Smart View for Office Readme を参照してください。

## ドキュメント・コンテンツからの接続の変更

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから、Smart View ドキュメント内の接続を変更できるようになりました。これは、異なるサーバーを指定する部門間で Office ドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

同じ接続情報を共有するドキュメント内のすべてのエンティティ(特定サーバーのサンプル・アプリケーションやデータベースを指すすべてのワークシートやグリッドなど)の接続プロパティを変更できます。また、シートごとに接続情報を変更することも可能です。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ペインの下部、または右クリック・メニューから「接続の変更」コマンドを選択します。手順は、Oracle Smart View for Office User's Guide の接続の変更に関する項を参照してください。

## 「ドキュメント・コンテンツ」ペインを非表示にする機能

Smart View パネルに別のペインを表示するときに、「ドキュメント・コンテンツ」ペインを完全に非表示にできるようになりました。Smart View パネルの「ホーム」ボタンで下矢印をクリックし、「共有接続」ペインまたは「プライベート接続」ペ

インなど、別のペインを選択すると、「ドキュメント・コンテンツ」ペインは、最小化された形式でも Smart View パネルの下部に表示されなくなります。

旧リリース同様、「ドキュメント・コンテンツ」ペインを最小化およびサイズ変更することは可能です。

## フォームでのデータ送信前のリフレッシュが不要

POV 変更後にデータを送信する前に、フォームのコンテンツをリフレッシュする必要がなくなりました。

フォームでの作業中に「データの送信」をクリックした場合、実際には、POV ツールバーで選択されている最新の POV にデータが書き込まれていることに注意してください。POV を変更するたびに、リフレッシュを実行することをお勧めします。リフレッシュによりシートのデータが更新され、最新の POV 変更が反映されます。

## 重複する変数名の表示の変更

このリリースでは、変数名が重複している場合に、完全修飾変数名を表示する機能が Smart View に追加されました。これは、グローバル、アプリケーションおよびデータベース・レベルで定義された変数の識別に役立ちます。

## 新規 VBA 関数: HypHideRibbonMenu および HypHideRibbonMenuReset

このリリースでは、次に示す 2 つの新しい VBA 関数が導入されています:

HypHideRibbonMenu() および HypHideRibbonMenuReset()。

- HypHideRibbonMenu は、関数に渡されるリボン・メニュー・アイテムを非表示にします。
- HypHideRibbonMenuReset は、HypHideRibbonMenu を使用してシート上で非表示にされているメニュー・アイテムの可視性をリセットします。

これらの関数は、Office 2007 以上でサポートされています。

詳細は、Oracle Hyperion Smart View for Office 開発者ガイドの HypHideRibbonMenu および HypHideRibbonMenuReset に関する項を参照してください。

## プラットフォーム・サポートの拡大

このリリースから、Smart View は次のプラットフォームでサポートされます:

- Microsoft Windows 8
- Microsoft Office 2013 (32 ビットおよび 64 ビット)

## タブレットのサポート

Smart View は Microsoft Surface Pro タブレットでサポートされるようになりました。

Oracle Smart View for Office Readme の説明に従って、Smart View インストール・プログラムをダウンロードして実行します。インストール後、PC での Oracle Smart View for Office の機能と同じものが Surface Pro でも使用できます。

## 以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1、11.1.2.2、11.1.2.2.300、11.1.2.2.310 または 11.1.2.3 からアップグレードする場合は、Cumulative Feature Overview (CFO) ツールを使用して、これらのリリースの間に追加された新機能のリストを確認します。CFO ツールによって、現在の製品、現在のリリース・バージョン、およびターゲット実装のリリース・バージョンを識別できます。また、現在のリリースとターゲット・リリースの間に開発された製品機能の概要を、必要に応じて組み合わせてすぐに生成することができ、使用可能な機能を把握できます。CFO ツールは、<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1> で入手できます。





## COPYRIGHT NOTICE

Smart View New Features, 11.1.2.5.200

Copyright © 2004, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Authors: EPM Information Development Team

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

**ORACLE®**